



気候変動リスクマネジメントの推進について (農業生産における気候変動適応ガイド)



気候変動による農業生産への影響が顕在化する中、今後はこれまでの研究や現場での取組を通じ、影響の将来予測や適応技術の効果等の情報を活用し、将来起こりうる気候変動リスクを可能な限り回避・軽減するリスクマネジメントの取組が重要です。

農林水産省では、気候変動に対するリスクマネジメント、どのような適応策を、どのタイミングで導入していくか等、実行する際の指導の手引き「農業生産における気候変動適応ガイド」(水稲、りんご、うんしゅうみかん及びぶどう)を作成しました。

実行計画の策定までの流れ

STEP1 これまでに経験した気候変動影響を整理する

これまでに経験した気候変動の影響、気象要因、被害の大きさ、その発生頻度についての情報を収集し、整理します。



・コシヒカリの白未熟粒が毎年発生し、温暖化の影響かな・・・
・将来もっと高温が続いたら今の対策でこのままいけるのかな・・・
・何か考えなきゃなあ・・・

STEP2 将来の気候変動影響に関する情報を収集・整理する

気候変動適応情報プラットフォーム(国立環境研究所)などから将来の気象予測の情報を収集します。

これまでに起きた影響や対策の効果を一度整理してはどうですか。お手伝いしましょうか。



STEP3 現在実施している適応策の実態と効果を整理する

実施中の適応策の内容・効果、導入する上での留意事項を整理します。



白未熟粒の発生防止には水管理の徹底が効果があるね。
・出穂期に高温に当たらないようにしないと・・・

STEP4 優先課題を特定し、適応策リストを作成する

産地に重大な影響を及ぼすと考えられる優先課題を特定します。
さらに、優先課題を踏まえ、まだ実施していない適応策を可能な限り洗い出します。



思い切って高温耐性品種を導入しようかな・・・

今から取り組めることと、将来に備えて準備するものを分けて考える必要があるね。



STEP5 適応策を選択し、適応策実行計画を策定する

産地の目標とする姿を踏まえ、今後実施していく適応策を検討・選択し、適応策実施計画を策定します。



地域で適応策の実行計画を作ろう。

計画では、将来を踏まえ、どのような適応策をどのタイミングで導入するかが重要！
5年後までに高温耐性品種の面積を〇%増やしていくとか。



実行計画の評価と見直し

適応策の進捗状況やその効果について、定期的に評価し、適宜見直しを図ります。

上記STEP1～5によって実行計画を作成します。必要に応じて見直しを図っていきます。



計画に沿って適応策を実行します。

適応策の効果や、新たな将来予測の情報等を踏まえ、改善点を確認します。

適応策の進捗状況と効果を確認します。

詳しい内容はガイドを御参照ください
→ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

【お問合せ】農林水産省生産局農業環境対策課 TEL:03-3502-5956

こちらから
アクセス!

